

第21回 南砺の地域包括医療・ケアを守り育てる会を終えて

第 21 回南砺の地域包括医療・ケアを守り育てる会を終えて

南砺の地域包括医療・ケアを守り育てる会
会長 山城清二（富山大学附属病院総合診療部）



田中市長、山城会長

平成 28 年 4 月 16 日（土）に第 21 回南砺の地域包括医療・ケアを守り育てる会を開催いたしました。今回は、埼玉県和光市保健福祉部長の東内京一氏に、「和光市における超高齢社会に対応した地域包括ケアシステムの実践～マクロの計画策定とミクロのケアマネジメント支援～・・・医療・介護の連携を中心に・・・」というテーマで講演していただきました。東内さんはカリスマ公務員と言われ、地域包括ケ

アの仕組みづくりでは全国的に有名な方です。

以下、第 I 部の講演の要旨をまとめてみました。

・和光市：埼玉県南部で東京板橋区と練馬区に接している面積 11km²（南砺市は 668km²）、人口約 8 万人のコンパクトな市で、高齢化率は 16.9%。

・介護保険は地方分権の試金石：行政の経営マネジメントで一番やりやすいのが介護保険であると認識した。つまり、予防に給付がついたことは画期的で、介護保険により利用者への支援ができること。このことは各市町村がわが町の課題の取り組み解決するチャンスであった。

・地域包括ケアシステムの必然性：高齢者ケアのニーズの増大、単身世帯の増大、そして認知症対策にはこのシステムは必要である。行政の縦割りをなくして、支援する仕組みをつくることが重要。

・首長の覚悟：地域包括ケアシステムの 6 要素を支えるには首長の覚悟が重要である。

・本人の尊厳を守る：このシステムの中心は本人の尊厳であり、それをいかに守る仕組みをつくるかが問われる。高齢者（市民）の尊厳と QOL の向上のための仕組み。

・介護保険認定率を下げた：要介護 1 と要支援に対しての重症化させない、あるいは介護保険卒業を目指した。また、卒業後の事業にも支援した（介護予防・日常生活支援事業）。

・多職種協働のイメージ：垂直統合では ICT 導入し病院と施設等とつなぎ、水平統合ではチームケアで対応した。

・マクロとミクロのマネジメント：マクロの計画は、圏域ニーズ調査から事業計画を立て、地域包括支援ネットワークを構築した。ミクロのケアマネジメントはコミュニティケア会議を実施。

・マクロの計画策定：ニーズ調査を徹底するとニーズの質と量が分かる。そして、課題の見える化に取り組む。そして基本方針を具体的なものにした（標語的なものはあいまいで。マスタープランでは良いが、目標は具体的なもの）。それが、明確な行動目標となる。



和光市保健福祉部長 東内 京一 氏

・ミクロのケアマネジメント支援：

介護保険の本質（目的、保険給付、そして国民の努力義務）理解のために出前講座を行った。最も重要なことは、要介護状態になっても進んでリハビリや福祉サービスを利用して、機能維持と向上に努める義務を理解することである。

・コミュニティケア会議：ケアプラン等の調整や支援であるが、専門職の OJT にもなっている（人材育成）。

・生活行為評価票による現状評価と予後予測の整理票：ADL と IADL の予後予測が重要である。

今回の講演のみでは和光市の取り組みの全てを理解することはできませんでしたので、下記の書籍を購入してあらためて講演の内容を振り返ってみました。介護保険についての正しい理解、現場の徹底したニーズ調査、その結果に基づいた事業計画、そして実践のための人材育成について詳しく学ぶことができました。最も感銘を受けたのは、東内さんの熱い思いと仕組みを作る実行力でした。地域包括ケアについて、南砺市が目標にするのは和光市ではないかと強く思うようになりました。



第 II 部 活動報告

4月9日に東京で開催された虎ノ門フォーラム（第1回地方自治体特集セミナー）にて南砺市の活動報告をいたしました。その報告の要点を6名がひとり5分以内で紹介しました。

- ① 田中市長「南砺市の地域包括ケアによる5つのまちづくり規範」、②南先生「南砺市の地域包括ケアシステム構築への取り組み～医療再生から地域づくりへ～」、③実践報告：大学から山城、専門職から村井さん、住民から大塚さん、行政から前川さん。

我々の取り組みについて、東内さんからお褒めの言葉をいただきましたが、まだまだ和光市には及ばないかなと思います。従って、みんなで連携して継続することが重要ですので、今後も一緒に、南砺市版の地域包括ケアシステムを構築していきましょう。



市民の方、行政関係者など多くの方が聴講されました

北日本新聞 2016/04/17

いきいき県西部

複合ケアで在宅支援

「守り育てる会」先進事例に学ぶ

南砺市の地域医療や福祉の将来像を探る「南砺の地域包括医療・ケアを守り育てる会」は16日、同市井波総合文化センターで、増玉県和光市の東内京一保健福祉部長を講師に開かれ、介護や医療、生活支援サービスを一体的に提供する地域包括ケアの先進事例を紹介した。

東内部長は介護や医療にとどまらず、住まいを含む生活を幅広く支援することの大切さを強調。生活保護や成年後見を含めた人材によるケア会議やニーズ調査を通じて、一人一人の課題をクリアするためのサービスを「守り育てる会」が実現してきたことを説明した。

取り組みの目的をお年寄りの快適な生活の実現とした上で、「身体機能の低下を防いだり、残っている機能を維持したりしたことで、要介護者の割合が減った」と、成果を紹介した。

在宅ケアの安心感を高めるため、24時間地域巡回型サービスや、栄養指導付きの配食、透析患者らへの移動支援などを組み合わせた結果、在宅へのシフトが加速したことも紹介した。